



現在の教室棟(昭和五十七年九月)・管理棟(昭和五十九年四月)がそれぞれ完成して、昭和五十九年の十月に挙行された創立百周年を盛大に祝ったのがつい先日のように思い出されます。今回は、その校舎内の至る所に立派な壁画を見受けませんが、それらについて紹介したいと思います。

まずは、管理棟の正面玄関フロアーにある壁画ですが、「下商百年の歩み」として、当時の美術教師の岸勤先生によって制作されました。向かって左から右へと見ると、創定期(明治十七年)から百周年(昭和五十九年)まで紆余曲折あった本校の歩んだ道のりを商業神ヘルメスと創立期の理想と進取の気風を左側で表し、校運隆昌の象徴としての

生徒棟の生徒玄関から二階に上がる際にある壁画は、「花」をイメージしたもので、岸先生が登校時の生徒の気持ちが落ち着くように制作されたものです。また、生徒棟の一階から三階のコモンホールの東と西にある壁画は、本校の校歌を表しているものです。ちなみに、三階東側は「校歌の一番(歴史に富める下関II歴史の積み重ねと天体)」、西側は「校歌の一番(未来に富める下関II太陽と溢れる光)」、二階東側は「校歌の二番(国の光を海外へ)ほとばしる光と才智」、二階西側は「校歌の二番(武士道の魂磨くII堅固な意志と躍動の感じ)」、一階の東側は「校歌の三番(見よ早稲の瀬戸の波IIうす巻いては流れる潮)」、最後に一階の西側は「校歌の四番(世の荒波に漕ぎ出でむII蓄積された力と進行)」といった力作を岸勤先生によって手がけられたのです。

待望の新校舎は、本校校舎構造耐力調査として昭和五十四年三月に関係機関に依頼して、改築の必要が指摘され、早速改築準備にとりかかることが本決まりとなり、校内で「校舎改築委員会」が設置され、「改築についての陳情書」が提出されました。それを受けて改築についての正式な協議がなされ、具体的に建築に伴う予算がされる運びとなったのです。

昭和五十六年四月には設計図が完成し、七月には旧校舎の解体作業が始まり、その際、本校南側のスタンドに仮設のプレハブ校舎を二棟建築され当時の一・二学年の教室として使用されました。夏は暑く、冬は寒い校舎で新校舎が完成するまでの我慢で生徒も先生方も授業をしていたことを思い出します。十月には本格的な基礎工事(杭打ち)が始まり、まずは教室棟、次に管理棟と夢の校舎が完成したのです。当時は、いずれ教室が冷暖房完備となりますと伺っていましたが、四半世紀後の平成十九年度に本当に実現することになりました。旧校舎の時代からすれば信じられない快適な環境で授業が受けられるようになったと思います。